

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町中山丑523番地1 (電話) 089-967-1688
管理者	亀岡芳江
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 20 年 5 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 14 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 3 日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	8 人
常勤	5 人
非常勤	3 人
常勤換算	5.65 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有()円	〇 無	
保証金の有無	有()円	有りの場合	
(入居一時金含む)	〇 無	償却の有無	
食材料費	朝食 240 円	昼食 380 円	
	夕食 380 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 20 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 93 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設8か月を経過したところで、家庭的な雰囲気を整え、安定した共同生活が過ごせるよう馴染みの関係づくりに真摯に取り組んでいる。利用者の自発的な外出には、職員間で連携をとり、利用者の気の済むまで何時間でも付き合うなど、自由なその人らしい日々の暮らしを支援している。そのためか、開放的で明るい雰囲気であり、訪問者は利用者の笑顔に心地よさを感じる。利用者と家族との関係を良好に保つことを心がけている。運営者が利用者の主治医で、月2回往診があり、入院にも応じることができる。必要により専門医の受診連携ができており

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

今回は第1回目の自己・外部評価のため、記載事項はない。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

全職員が個別に自己評価し、管理者と計画作成担当者が取りまとめた。職員は一人ひとりが評価することで、取り組んでいることや取り組みたいことが明確になり、日々のケアサービスや思いを振り返ることができると自己評価の意義を理解している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

会は原則として2か月毎の開催としている。会は始まったばかりであるが、ホームからは現状報告等を行い、参加メンバーからも素直な質問や具体的な意見がもらえており、それらの意見を活かしてサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。会はホームが取り組みたいことの公表の場でもあると捉えている。議題によっては、メンバーを固定することなく、広く参加を呼びかけ、チームでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族の面会時には職員から声をかけ、要望等を積極的に聞くよう努めている。重要事項説明書にホームの苦情受付窓口や公的窓口について電話番号を記載して紹介し、入居時にも説明している。職員の、普段から積極的に意見をいただくという姿勢や、相談事だけでなく利用者の日常の様子もこまめに情報提供する姿から、家族は話しやすさを感じている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

自治会に加入し、お神楽などの季節行事に利用者とともに参加している。さらに自治会の方と相談し、日常的な地域活動にも参加していきたいと考えている。山間の町で、事業所周辺は民家が少ない。月1回は全員で地元の人がよく利用するスーパーに買い物に出かけている。事業所は利用者が地域住民とつながりながら暮らしていくため、まず、出かけていくことで、交流の機会づくりを始めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム秦皇

(ユニット名)

ほたる

記入者(管理者)

氏 名

岡田絹子

評価完了日

平成 20 年 4 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 全体の理念はできていて、フロア内に掲示している。 (外部評価) 法人としての運営理念の他に、全職員で、家庭的な環境の下でのその人らしい暮らしを目指した「私たちの介護理念」を作り、日々のケアサービスに取り組んでいる。しかし、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容は含まれていない。	※	スタッフ間で独自の理念を考え作り掲示している。 利用者が、住み慣れた地域の中で生活者として継続した暮らしが実現できるよう、地域との交流を目指している。利用者に関わるチームの共有を図るため、今ある理念を実践する中で、さらに地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を共に作ることで理念の共有、実践に取り組んでいる。 (外部評価) 「私たちの介護理念」はホーム開設に際して全職員で作ったものであり、共有できている。さらに、理念の実践を図る手立ての一つとして、職員一人ひとりの具体的な行動目標を立て、「個人目標」として、出勤したら直ぐ目に入るところに掲示し、日々のケアサービスに取り組んでいる。	※	職員日々の情報を共有していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の回覧版に施設の新聞を入れて頂き活動内容を地域の方に知ってもらっている。家族の方にも毎月新聞を送らせて頂いている。	※	施設の理念をわかってもら施設の行事などに参加して頂けるよう

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ご近所の方などに挨拶はできている。利用者との散歩のときにはこちらから声をかけるように努めている。	※	隣の家に話をしに行くような感じでホームに来て頂く雰囲気を作っていきたい。行事などに地域の方を招待し催し物をしてみたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) お祭り、おかぐら、子ども行事に参加し交流につとめている。 (外部評価) 自治会に加入し、祭りなど季節行事に利用者と一緒に参加している。また、日常的な地域活動にも参加していきたいと考えている。山間の町でありホーム周辺は民家が少ないので、月1回は全員で地元の人がよく利用するスーパーに買い物に出かけるなど、まずは地域へ出かけて行くことで地域住民との交流の機会をつくることを始めている。		火災など緊急時の協力をお願いをしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 去年開設し、ホーム内の事に追われており地域の高齢者の暮らしにまで目を向けられていない。	※	地域の高齢者の方について職員共々話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 初めての自己評価であるため具体的な改善には取り組んでいない。しかし、外部、自己評価の意義は理解している。 (外部評価) 開設8か月を経過した時点での、初めての自己・外部評価である。職員は、自己評価を各々が行うことで、自身のケアサービスを振り返ることができると、評価の意義を理解している。開設来、利用者との馴染みの関係づくりに努めており、職員間の会話は利用者に関する業務報告がほとんどであったが、各々のケアサービスに対する思いを知る機会でもあった。	※	外部、自己評価の意義の再認識を行い、評価を生かし具体的な改善に取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では多くの意見を頂いている。家族のかたより外食とか、地域の行事参加の事。実施させていただいている。評価等の報告は次回にさせて頂く。	※	個人の鉢を持って頂き草花を育てていくなど、具体的な意見を参考にしたい。評価の報告をさせて頂きサービスの向上に活かしていきたい。
			(外部評価) 原則として2か月毎の開催としている。ホームからは現状報告等を行い、参加メンバーからも率直な質問や具体的な意見がある。しかし、会議を開催するにあたっての家族への参加呼びかけは1家族に限定されており、会議の存在を知らない家族もいる。	※	会議はホームが取組みたいことの公表の場でもあると捉えている。議題によっては、メンバーを固定することなく、内・外部問わず広く参加を呼びかけ、チームでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。議事録は内容が詳細にわかるようになっているので、参加されなかった家族が共有できる手段を講ずることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現時点では、他に行き来する機会は特別に設けていない。	※	行事等に参加していただけるよう機会を作りたい。地域用の新聞を市に送らせて頂いて、ホームの様子が少しでもわかって頂けるのではないかと、また、新聞に関しての意見も頂きたい。
			(外部評価) 運営推進会議をきっかけに、民生委員が訪問してくれる機会が増えてきている。また、毎月発行している地域向け新聞を市担当者へ送付することになり、ホームを知ってもらう機会は増えつつある。また、介護相談員の受け入れを市に打診したが、今年度はグループホームは対象外であるということで、残念に思っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は理解していると思うが理解していない職員もいる。	※	勉強会に取り入れたり、研修に参加したり制度についての理解を深め全職員が説明できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が注意を払い防止に努めている。虐待の法律について学ぶ機会は少ないが、日々職員間で話あっている。		研修、勉強会に参加して法律の事に関しても知識を深め、防止に努めたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書面をもってわかりやすく説明し同意をえている。事前調査時に家族の方に解る範囲で教えて頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付を設けている。 スタッフは日々利用者と話し、胸の内に目を向けるようにしている。	※	介護相談員の来所をお願いしたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 健康状態に応じ、他の病院受診の相談・報告。おこずかいの現状報告。 月1回新聞を発行し、ホームでの行事や暮らしぶりを報告している。 (外部評価) 面会時や電話で利用者の暮らしぶり、健康状態や受診結果等を報告している。金銭管理は、小遣帳や領収書を明示し、面会時に報告している。家族向け新聞を毎月発行しており、職員の異動がある場合は、新聞でも報告することを考えている。相談事だけでなく、利用者の日常の様子もこまめに電話などで家族に情報提供するようにしている。	※	家族への、特変なくても近況報告をするようにしたい。 職員移動があると、月の新聞で報告するようにしたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付を設けている。 意見箱をホーム玄関に設置している。 (外部評価) 面会時には職員から声をかけ、要望等を積極的に聞くようにしている。重要事項説明書にホームの苦情受付担当や公的窓口を記載し紹介している。普段から積極的に意見を聞くよう心がけ、利用者の日常の様子をこまめに連絡し、必要なことはその都度家族と相談していることで、現在「苦情」に至るケースはない。	※	家族会の実施 家族の会の設立

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の、勤務時を含めスタッフの意見に耳を傾け反映させている。 ホーム長会議が月1回実施されている。 業務カンファレンスを月1回実施している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事等に対応する為などに、時間外の勤務がある。	※	必要に応じ柔軟な対応ができるようにしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員移動に関してできるだけ、馴染みの職員による支援を受けられるように努力している。また、代わるときは職員に十分情報を理解してもらっている。 (外部評価) 利用者と職員の馴染みの関係を保つことを重要と考えており、ホーム側の都合での異動は行っていない。職員採用に際し、継続した雇用を図るため、3日程度実習期間を設け、双方ともに勤務可否の判断を行うようにしている。管理者は、新任職員には利用者の情報を提供し、早期の馴染みづくりを指導している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 実務経験なども考慮して、資格、研修などの機会の確保計画を立てている。 (外部評価) 運営法人は、内部及び外部の者を講師とした研修会を開催し、多くの職員が等しく受講できる機会をつくっている。また、職員の経験や立場に応じた研修の機会を業務命令で受講させるなど、職員の質の確保や向上に取り組んでいる。また、研修報告は出張報告書と毎月のケアカンファレンス会で発表され、全職員が研修内容を共有できるようにしている。	※	具体的に計画を示し、研修などに参加するようにしたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同業者用との相互訪問はあるが、地域の同業者と交流する機会が現在の所一部の入居者の方にはあるが、殆ど設けられていない。 (外部評価) 法人は、他にも多数のホームを運営しており、法人内の研修会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。また、市グループホーム連絡協議会に加入し、その中で他ホームの見学を受け入れるなど、交流機会を持っている。	※	地域施設の方と交流する機会などを増やし、利用者に活気ある生活ができるようにしたい
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 忘年会を実施している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 資格取得を勧めたり、研修への参加を促して、向上心を持って働けるように勤めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 依頼後事前調査を行い個々のニーズを知り、過去、現在、これからの希望、不安など聴き理解するよう努力している。	※	本人の内的感情にまで迫れるように聴けるようにしていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人同様に家族の方からも、事前調査、及びホーム見学などの時よく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人が家族と会話している時の様子や本人、家族の話の中で関係性を感じ取るよう努力し、よい関係が築けるよう支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人家族と話し合いながらホーム等の見学をしていただき、どのような所かを理解して頂き少しずつ馴染めるよう工夫している。 (外部評価) 入居希望者や家族には何回か見学に来てもらい、雰囲気に徐々に馴染めるようにしている。入居後も、利用者の馴染みのものを持って来てもらうなど、家族と協働しながら、利用者が安心できるよう努め、ホームでの生活に早期に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の今までの経験を尊重し、できる事はして頂き、また一緒に作業したり生活の中で本人から学んだりして、支えあう信頼関係を築いてくる。 (外部評価) 職員は、利用者と楽しく笑顔で共に生活するという視点を大切にしている。一緒に生活する中で、旬の食材の料理方法、味付けや野菜の植付け時期など、利用者に教えてもらう場面が多く持てている。利用者の突然の外歩きに何時間もつきあい、本人が納得しての帰路の満足した笑顔やねぎらいの言葉は、職員の励みになっている。	※	本人の持っている長年の知恵を、活かせる様な事を実施したい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方に面会時電話などで近況報告し、一緒に本人を支えて行くようにしている。	※	家族の方と話し合える時間を作って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人が家族と会話している時の様子や本人、家族の話の中で関係性を感じ取るよう努力し、よい関係が築けるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所が有り本人が行きたいと希望する場合同行訪問している。家族等との外出、外泊。	※	馴染みの関係が途切れないよう、定期的連絡をして行きたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士対立する時が有るがスタッフが間にはいるようにしている。また利用者数名での散歩や家事の手伝い、レクリエーションを通じて互いに話をする機会を作るようにつとめている。	※	体調不良等で孤立している人に対して職員だけでなく利用者との関わり合いをつくっていききたい。 トラブルなど事前に問題除去出来るようにしたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は現在おられない。	※	継続的な関わりを必要とする利用者家族には関係を断ち切らないようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<div>(自己評価) 本人との意向会話の中により暮らし方の希望意向の把握、また今までの生活歴を知ることでその人らしい生活になるように勤めている。困難な場合は日頃の言葉、様子から検討している。</div> <div>(外部評価) 利用者の生活歴や思いは、入居時の聞き取りや日々の会話の中で把握するよう努めているが、職員は情報が多く得られているとは思っていない。最近、「気づきノート」を設け、日々の中で職員の気づいたことや聞き知ったことを記録する取り組みを始めているが、記録するだけにとどまっている。</div>	<div>※</div> <div>※</div>	<div>家族の方との十分な話し合いを持ちたい。</div> <div>生活歴や思いは信頼関係が深まる中で聞けることが多いため、利用者や利用者に関わる人との信頼関係をさらに深めると共に、「気づきノート」を有効活用し、利用者のその人らしい暮らしを支援することを期待する。</div>

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの物を家族の方にこれまでの生活を聞いている。一人一人の情報をファイルにして本人を把握できるようにしている。	※	馴染みの物を家族の方から聞き、身の回りにおくようにしたい。今までのサービス利用を以前のケアマネージャーから聞きたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 暮らしの現状はわかっているが本当にその方が望んでいる暮らしかは理解していない。心身の変化は顔色を見たり、話し合ったりして気をつけている。	※	本人を理解できるよう現状について家族・スタッフ間の話し合いを持って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回職員全員でケアカンファレンスを行い、本人・家族の希望など話し合い、計画をたてている。また、職員同士利用者が日々の生活の中で変化があったときはその都度話し合って計画に反映させている。		
			(外部評価) 家族には、面会時や電話で意見や要望を聞き、全職員でケアカンファレンスを行い、日々のお互いの気づき等について意見交換し、本人本位の介護計画になっている。介護方針は、全職員が作成に関わることで共有できている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月一回職員全員でケアカンファレンスを行い、スタッフ間で意見交換し、見直しをしている。また、見直しの期間でなくても変化に応じて話し合いをし、計画の建て直しをしている。		
			(外部評価) 介護計画についての評価は日々記録し、1か月毎にサービス担当者会議でモニタリングを行っている。利用者に状況変化があれば、随時、計画の見直しを行っている。しかし、利用者や家族との間では見直した計画の確認ができていない。	※	見直した計画を利用者や家族にわかりやすく説明し、内容に関する話し合いを行うことで信頼度も高まると思われるため、工夫を望む。また、同意のサインを求めることも期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活を書いた介護日誌を個別に記入している。月一回のケアプランの見直しをし、現状にあったプランを作成している。情報を共有し実践に活かしている。	※	個別の情報を多く集め、実践に役立てたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の同意の下に職員が受診等の介助を行い支援している。 (外部評価) 医療連携体制の確保、通院介助、外泊支援、墓参りや買い物など、利用者や家族の要望により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員を通じ、地域行事に参加させていただいている。	※	多くの地域資源を活用し活動的にすごせるよう支援していきたい。介護相談員の来所も期待したい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの活用についてはあまり話し合いをしていない。	※	本人の意向や家族の希望に応じて利用できるように支援していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの共同はあまり出来ていない。	※	今後、協力して利用者にとってより良くなるよう協働していきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医が月二回往診に来てくれている。緊急時の対応もするようになっている。本人家族の了解の下、専門医の受診もできるようにしている。 (外部評価) 入居時、利用者と家族の希望があれば、運営者の診療所(内科・外科)を主治医にしている。往診も月2回行っている。また、毎日状態確認の電話が看護師よりある。専門的な受診を必要とする場合は、利用者や家族の希望する医療機関等を、家族に事前に了解をとった上で受診している。	※	眼科・皮膚科・歯科
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ専門医の治療を受けている。受診時に職員が相談報告し、指示を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎日主治医の診療所から状態確認の電話が入る。看護職員が定期的に訪問し健康管理などの支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 連携を取っている。	※	入院時、事業所内の様子を伝える。退院時、病院内の様子を伝えていただく。 情報交換をより深く充実させたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化や看取りに対しては本人・家族の意思を尊重し家族、医師、職員が話し合いをしている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方についての方針は、入居時に利用者と家族に説明を行っている。現在のところは必要性が起こっていないため、具体的な看取り方法などについてチームでの話し合いは行っていないが、管理者は、看取りに対応できる技量を高めるための職員の勉強が必要と考えている。	※	看取りに関しては本人・家族の希望を十分に聞き対応するようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 前例が無い。	※	家族にターミナルケアのことを説明し、今後必要になる方については家族と主治医が話し合っていたきたい。医療機関とスタッフ間で話し合いをし、チームケアが出来るようにしたい。そしてまた家族の付き添いが出来るような環境を作りたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 前例が無い。	※	今までのホーム内での様子、情報を知っていただき出来るだけ速やかに次の生活に入っていただけるよう勤めたい。ケアプランなどの情報を要望があれば参考にさせていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応に注意しその方を尊重した声かけをしている。また、個人情報はスタッフ一人一人がしっかりと念頭におき、取り扱いには気をつけている。 (外部評価) 必ず利用者のそばで視線を合わせ、穏やかな口調で声かけを行っている。個人情報に関する書類は事務コーナーの鍵のかかるロッカーに保管し、個人情報に関する同意書で利用目的ごとに利用者・家族の意向を確認するなど、情報提供の取り扱いの徹底が図られている。	※	利用者に対して尊敬の念を持ち、個々を尊重して対応していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) なるべく利用者本人が選択できる場面を作り、利用者本位の生活が出来るように支援している。しかし、利用者の内面的部分に働きかけるのは難しく本人の希望に合った自己決定ができていのかどうかはわからない。	※	日頃のコミュニケーション、何気ない会話の中にその人の思いがあるのかもしれない。それを見抜く力、見極める力を養っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事故がないよう配慮しながら本人のペースに出来るだけ添った日常が送れるよう支援している。 業務の枠にはめての支援になっているところもある。 (外部評価) 利用者の身体的・精神的な安定を保つため、食事や睡眠など基本的な生活のペースはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。利用者の希望に沿った、その人らしい暮らしになるよう職員間で連携を取りながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容は出張美容師に来ていただいている。家族の協力の下通いながれた美容室等にいけるようにもしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食事の準備、片付けなど行っている。 好みやその人の力を配慮し食事を楽しむことが出来るよう支援している。 (外部評価) 味付けや調理法を職員に伝授する、テーブルや食器を拭くなど、利用者の好みや力に応じて食事の準備や後片付けと一緒にしている。リビングで料理が出来あがるのを待つ方など、楽しみ方は各々である。家族からも山菜や朝採り野菜などの差し入れがあり、利用者は目先の変わった味や美味しいものを職員と共に楽しんでいる。	※	一部の人だけでなく皆さんで出来るよう支援していきたい。(準備・片付け)
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の好むものを(コーヒーなど)おやつするときなどに出すようにしている。	※	利用者と話し合いを持ち、少しでも多く好みのものを把握しだすようにしたい。季節に応じたお菓子や本人の身体状況に合わせた食べ物を特別に作ったりしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェックをつけて、トイレに誘導する時間はそれぞれの排泄パターンにあわせて支援している。	※	介護者の時間での声かけでなく「本人が行きたいときがしたいとき」ということでそのサインを見極める努力をして行きたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望やその体調を見て入浴を楽しめるよう支援している。(一応、日・火・金が入浴日となっている。) (外部評価) 入浴は曜日を決めているが、利用者のその日の意向や体調により、随時の入浴支援となっている。浴槽に浸かると喜ばれるが浴室に誘導するまでが困難な方に対しては、声かけや対応を工夫して納得しての入浴支援ができているなど、全員が入浴を楽しんでいる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 寝る時間は一人一人のペースに合わせて眠っていただけるように支援している。また、眠くなったときには自室に戻り休んでいただき自主性を尊重している。体調などを見計らい休息の声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 全員に役割や楽しみごとが見つからない。一部の方には家事・散歩などされている。他の方は月に数回の買い物等、レクリエーションで気晴らしをしていただけているようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者のその人となりを把握し、利用者の興味やペースを見極めながら、役割や楽しみが持てるよう支援している。何がしたいか希望がある方や、役割・楽しみが見つからない方はその意欲が継続できるよう支援している。意思表示があまりない方には、できそうなことを職員がお願いし、出番づくりを支援している。	※	ホームでの生活が楽しめるよう全員の方に役割を持っていただけるよう支援していきたい。 具体的にはそれぞれに鉢を持って頂き花を育てたり、漬物を作ったりして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族了解のもと数名の方はお金の管理をされている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 月に一度は外出をするようにしている。また希望により(個別)散歩、買い物支援している。 (外部評価) 買い物、散歩、ドライブ、家族や知人に会いに行くなど、利用者の希望に応じて出かけている。月に1回は全員で買い物に出かけている。また、地域行事に参加する機会も増えてきている。地域とのつきあいが広がることで、さらに利用者が戸外に出かける機会ができることが期待できる。		一人一人の希望に添って戸外出かけられるのは厳しい時があるので、安全に支援できるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 全員の方にはできていないが、普段行けない場所への外出支援はできている。(墓参り、ドライブ、以前通院していた病院、施設等)		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族とも協力しながら、電話介助、手紙の支援をおこなっている。	※	絵手紙、年賀状などでも対応していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問者があった場合歓迎の気持ちを込めお茶を出し、居室でゆっくり話して頂けるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員が法律における具体的な禁止行為を正しく理解は不十分かもしれないが、身体拘束をしないケアには取り組んでいる。	※	勉強会、研修などに参加し具体的な行為をすべての職員が知っておくようにしたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関施錠していない。職員はその為に起こる不安全性も理解している。 また、鍵をかける事の弊害も理解している。しかし自室、フロアの窓は段差があり危険であるため窓が開く間に制限を設けている。 (外部評価) 玄関は引き戸で、夜間の防犯上以外は施錠していない。職員は、利用者の外出の傾向等を把握し、安全面に配慮しながら、見守りと同伴対応などで利用者の自由な出入りを支援している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 本人のプライバシーに配慮しながら昼夜過ごされて居る場所の把握、見回りの徹底をしている。フロアで日誌の記録などをし全体を見守り出来るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品に関しては安全な保管場所がある。また危険を防ぐよう未然に除去する工夫をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の状態を考え、危険性のある方特に注意し、事前の防止に努める。また事故に至った時や、事故に至る恐れのある行為があった時は、記録に残しスタッフ全員で話し合い事故防止に努めている。	※	事故等に及んだ時の対応を職員全員が把握出来るよう勉強会などで伝えて行きたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に訓練は行っていない。 施設内にマニュアルを掲示している。	※	消防署の指導を受け救急救命の講習を受けるようにしたい。 その日の勤務者で常に急変に備え話し合って行きたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の方に口頭で災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) ホームから大声が届く範囲内にあるコンビニエンスストアと民家1軒に、災害時の協力を口頭で依頼している。居室は重量感のあるタンス類を備え付け、背の高いタンスには転倒防止ポールをしている。しかし、災害対策に関するマニュアルは作成されておらず、全職員の防災についての共通認識が図られているとはいえない。	※ ※	地域の方の協力を得て、災害時の緊急連絡網を作成して行きたい。 早期にマニュアルを作成し、利用者の安全が確保できるように、定期的に災害時訓練等を実施することを期待する。また、災害時の体制整備にあたり、地域住民や関係機関等との連携は不可欠であるため、地域住民と話し合い、災害対策に関する理解を求め、実効性のある協働体制づくりに取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 各入居者の家族の方に、起こりうるリスクの説明をして同意を得ている。	※	下肢筋力の低下が見られる方は転倒の恐れがある事、またそれに伴い骨折される危険性がある事を話合って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 申し送りを、日勤一夜勤一日勤とし、情報の共有できるようにしている。体調の変化や異変に対しては、他の勤務者にも速やかに情報を共有出来るようにしている。毎朝のバイタルチェックをしている。また、異変に気付いたときは看護師の資格を有する職員に連絡し主治医の意見を仰ぐ。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が副作用の事まで知識を有しているとはいえない。薬が変更したら用法、用量の説明を受診ノートや、申し送りノートに記入して共有している。医師からの処方箋をファイルにしている。	※	薬についての理解を深めるため勉強会をして行きたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の予防になるような食物、水分を摂取して頂いている。水分チェック、排便チェックをしている。定期的に運動をして頂いている。 服薬管理	※	お腹中心の的をしぼった運動もして行きたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後一人一人に応じた声かけをし、口腔ケアをしている。	※	拒否のある方の対処を話し合って行きたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を摂取して状態を把握している。 (外部評価) 法人の栄養士が作成した献立を基本に、その日の利用者の希望も取り入れながら、栄養バランスに配慮した食事内容になっている。食事・水分量は摂取状況をチェック表に記録し、適切な確保に努めている。嚥下困難な方には、刻んだりとろみをつけるなど食形態を変え、小食が気になる方は、家族と一緒に食事をする機会をつくるなど、各々の状態に配慮した支援に努めている。	※	意思の疎通が困難な方に対しての適切な必要量が摂取できるようにしたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 調理のときに十分に注意する。消毒洗剤で手指を消毒している。床と手すりを掃除するときは消毒液を使用している。 感染予防のマニュアルは作成している。 インフルエンザワクチンの摂取。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材調理のときに十分注意し調理用具はハイター等で消毒している。まな板、布巾、台布巾の消毒。 生鮮食材の早期利用。 冷蔵庫内の定期的な掃除。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに花を植えている。(季節の花)	※	花の量が少ないのでもう少し増やし明るくし、利用者の方に楽しんでいただきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 間接照明や電球等で暖かい空間を作り出している。季節の花を飾っている。季節に合ったものを貼ったり置いたりしている。 (外部評価) リビングの壁2面は広い腰高窓で、自然の採光と室内照明とで心地よい明るさになっており、利用者はリビングでよく昼寝をされる。勝手口を開放し、爽やかな風と香りをホーム内にとり入れている。季節の花や装飾品を程よく飾り、落ち着いた開放感のある居心地のよい共用空間になっている。	※	落ち着いた雰囲気のある空間のしつらえを考えていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間には畳の間がありそこで洗濯物をたたまれたり、腰掛けて話されたりして過ごされている。五人がけのソファがあり、そこでくつろぐことも出来る。利用者はそれぞれの居場所を見つけ、過ごされている。	※	食卓の席替えを考えている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一部の利用者の方には馴染みの物を持ってきてもらいいただける空間作りが出来ている。 (外部評価) ベッドや木製の家具類の配置を工夫し、家族の協力で衣服は季節毎に入れ替えており、整然とした過ごしやすい部屋になっている。職員は、利用者の状況に応じて好みのものや馴染みのものを家族と相談しながら身近に置くよう努めており、その人らしい居室になっている。	※	全員の方に本人や家族と相談しながら使い慣れたもの馴染みの物を持ってきて、落ち着いて暮らしていただくよう工夫していきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 室内と室外に注意している。換気は24時間換気が設置してある。温度調節はエアコンを、配慮しながら使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを設置し伝え歩きが出来るようになっている。廊下は十分な広さがある。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱や失敗を防ぐことはあまり出来ていない。しかし、職員が利用者の状況に応じた対応をしている。	※	自立して暮らせるためには何が必要か本人・家族・職員で話し合っていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭があり散歩が出来るようになっている。少しの花壇があり季節の花、野菜が植えられている。利用者は散歩は出来ているが利用・活動には至っていない。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	開設して約半年が過ぎ日々の業務に追われ利用者の意向を確実に捉えられているか疑問がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時間、水分摂取時に一緒にゆったりと過ごすことがある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	基本的には利用者のペースで日々を過ごしてもらうようにしているが、スタッフの人数が少なかったりまた、ホームの流れにあわせてもらったりこの場合は説明をしてもらったりして同意を貰った上で行っている。 利用者同士のトラブルにより気を使ったり怖がっている利用者がいる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	企画など、催し物をしているとき。 家事などの作業をしているとき。 体操をしているとき。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一部の人が行きたい所へ行かれている。(買い物や散歩に行きたいと訴えられたらその都度行っている。) 全員参加は、企画を立てて、行きたい所を募って行っているので全員の方の思いではない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	服薬拒否がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望を言える利用者がいて、柔軟な支援により安心しておられるから。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	利用者の家族全員から信頼関係が出来ていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	民生員の方、地域の人々が来られる

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議を通して一回目より二回目と地域の行事に参加することが増えた。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	歌を歌ったり、風船バレーのときなどは利用者の笑顔が見られ、職員も生き活きしている。また職員一人一人が笑顔で進んで利用者とのかかわりを持ち支援している。しかし、日々の業務に追われゆとりが無い職員もいる。職員同士の信頼関係は出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員に対して不満を言ったりされる人もいる。スタッフの理由により利用者のしたい時にしたいことが出来ないときがある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からサービスについての苦情がほとんどない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

個人の希望や訴え時には出来るだけすぐに対応するようにしている。お一人お一人ができる事はしていただけるようスタッフが見守っている。毎日笑顔で利用者の方に接するように勤めている。